

公共事業事前評価調書(平成28年度予算要望)

所管課: 道路街路課

担当班: 企画調整班

事業名	那覇バスターミナル周辺交通結節点改善事業	事業区分	街路事業	事業主体	沖縄県
事業箇所	那覇市泉崎及び旭町				
事業の諸元	ペDESTリアンデッキ2カ所、県道39号線幅員構成再構築W=18m,L=約0.2km				
事業の概要	<p>当該箇所は、那覇バスターミナル、旭橋駅といった交通結節点、南部合同庁舎、市役所といった行政庁舎、ホテル、オフィスといった民間ビル等が立地する、歩行者の発生集中の多い箇所である。</p> <p>当該事業は、旭橋再開発事業によるバスターミナル整備に合わせアクセス改善を図り、安全で快適な歩行空間を確保するため、那覇バスターミナル周辺のペDESTリアンデッキ整備と同ターミナルへのアクセス道路である県道39号線の幅員構成の再構築を行うものである。</p>				
事業の必要性・効果等	<p>[必要性等]</p> <p>○那覇バスターミナルにおいては、現在、市街地再開発事業により、再整備が行われており、交通結節点としての機能強化が図られている。また、同再開発事業では、県立図書館や駐車場等の整備も予定されていることから、更なる増加が予想される歩行者への対応が急務である。(モノレール旭橋駅周辺地区市街地再開発事業(北工区))</p> <p>○交通拠点として整備される那覇バスターミナルと、本県のメインストリートである国際通りや市役所、県庁を結ぶ県道39号線(那覇バスターミナル～琉球新報前)については、本県のシンボリックな道路の一部として、安全で快適な歩行空間の整備は不可欠である。</p> <p>[効果等]</p> <p>○増加が予想される歩行者の安全で快適な歩行空間の確保</p> <p>○ペDESTリアンデッキ整備による歩車分離にともなうバス、車の円滑性向上</p> <p>○結節性向上による公共交通(バス、モノレール)の利用促進(道路交通渋滞緩和)</p> <p>○国際通りとの一体化による地域活性化</p>				
事業期間	事業採択	平成 28年度	完了(予定)	平成 33年度	
全体事業費	9.8 (億円)	補助・単独の別	補助	補助率	9/10
事業着手の熟度・上位計画との整合性	<p>○沖縄21世紀ビジョン基本計画で、「人間優先のまちづくり/歩いて暮らせる環境づくりの推進」等として位置付けられている。</p> <p>○沖縄県総合交通体系基本計画で、「人及び環境に優しい都市構造を支える交通体系/交通乗継利便性の向上」として位置付けられている。</p>				
環境への配慮	歩道のバリアフリー化、デッキひさしや緑陰による強い日差しへの対応、景観に配慮したデッキ、歩道整備等により、歩行環境の改善を図る。				
関係する地方公共団体等の意見	平成15年のモノレール旭橋駅周辺地区第1種市街地再開発事業の都市計画決定において、“歩行者環境の利便を図るためペDESTリアンデッキを適宜配置する”ことが決定されている。また、那覇バスターミナルと旭橋駅をつなぐペDESTリアンデッキを那覇市が整備することとなり、市も事業者の立場として、県と連携し、当該事業を推進することとしている。				
概要図(位置図)	<p>【県新規】県道39号線幅員構成再構築 W=18m、L=約0.2km</p> <p>【市整備】旭橋駅方面ペDESTリアンデッキ [モノレールデッキ(2F)↔バスターミナルデッキ(2F)]</p> <p>モノレール旭橋駅</p> <p>バスターミナル (再開発事業中)</p> <p>【県新規】県道39号線方面ペDESTリアンデッキ [バスターミナルデッキ(2F)↔県道39号線(地上)]</p> <p>【県新規】国道330号横断ペDESTリアンデッキ [バスターミナルデッキ(2F)↔南部合同庁舎等ビルデッキ(2F)] (現横断歩道橋を撤去し、横断歩道機能を兼用)</p> <p>事業箇所</p>				